

(3) 医療供給体制と医療費について

医療供給体制と医療費

- 医療費に占める人件費の割合は過去約5割で安定して推移している。
- 医療費の将来見通しでは、昨年の医療制度改革実施後で、2006年で33.0兆円が、2025年で56兆円の1.7倍になると見込まれている。
- 一方、平成18年7月に公表された「医師の需給に関する検討会報告書」によると、現在の医学部入学定員で推移した場合に供給される医療施設に従事する医師の数は、2006年の25.9万人が、2025年には31.1万人と1.2倍になっている。
- また、平成17年12月に公表された「第6次看護職員需給見通しに関する検討会報告書」によると、2006年で127万人の看護職員が、2010年に139万人になると見込まれている。
- 「社会保障の給付と負担の見通し」の賃金上昇率の前提によると、2025年の賃金は累積で現在の1.6倍になっていることを踏まえると、医師や看護師が上記のように推移するとすれば、医療費の将来見通しは、供給体制からみて、必ずしも過大なものではないことがわかる。

医療費の将来見通しと医師数の見通し

	2006年度	→	2025年度	
医療費				
改革実施前	34.0兆円	→	65兆円	1.9倍
改革後	33.0兆円	→	56兆円	1.7倍
賃金上昇			年率2.4%程度	1.6倍
医師数	25.9万人	→	31.1万人	1.2倍

- (注)1. 医療費は、平成18年医療制度改革をベースにした試算結果である。
2. 賃金上昇率は、「社会保障の給付と負担の見通し」(平成18年5月)の前提である。
3. 医師数は、「医師の需給に関する検討会報告書」(平成18年7月)に基づく。